

第54回水の都ひろしま推進協議会【議事録（要旨）】

- I 日 時 令和6年（2024年）3月26日（火）14：30～16：10
- II 場 所 広島市男女共同参画推進センター 5階 研修室3、4（ゆいぽーと）
- III 出席委員 別紙のとおり
- IV 議事概要

審議事項(1)

第3次「水の都ひろしま」推進計画の策定について

—原案のとおり承認—

審議事項(2)

令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）について

《正本委員》

水の都ひろしまロゴマークの活用等（普及・PR活動）について、どのように行っているのか。また、予算案にあるコンサートの協賛については、どのように協賛を募っているのか。

《事務局》

原爆ドーム対岸で春・秋に開催している水辺のコンサートにおいて、ロゴマークの掲出を行っている。来年度も引き続き継続する予定である。また、コンサートの協賛については、過去に協賛歴のある企業等に依頼し、その回答を踏まえた予算案の金額としている。

《西名会長》

コンサートにおけるロゴマークの掲出は当日のみか。

《事務局》

当日のみである。

《山本副会長》

事業計画は前年度と大きく変更はないということか。

《事務局》

前回の協議会の際に、新規事業等の提案についてお伝えさせていただき、昨年末に委員の皆様にご文書で送付させていただき御意見を募ったが、特に意見がなかったため、昨年度とほぼ同様の内容となっている。

《山本副会長》

推進協議会は企画屋ではなく、委員の皆様は忙しいため、意見はなかなか出ないと思う。令和6年度は企業も個人も地域も様々なことをやろうと考えていると思う。その中で昨年と同じで本当に良いのかと思うが、今さら何かしろと言っている訳ではない。ただ、私が気になっているのは、広島県は転出超過となり、人口が減っている。特に20代の若者が減少している。それは、統計の取り方にもよるかもしれないが、広島市の人口の減少は明らかである。魅力ある広島をみんなで創っていかなくてはならない中で、魅力を出しやすいところは水辺や水の都と言われるところだと思う。インバウンドや旅行者に対してはもちろんであるが、広島市民が広島は良いと思うような仕掛けづくりが必要である。

前々からクリスマスマーケットについて言っており、来年度は無理かもしれないが、何か面白いイベントが川辺でできないかと思う。

《西名会長》

転出超過ということが問題となってきており、水の都ひろしまということを標榜しているのであれば、それを骨格としたにぎわいや魅力の創出を検討しないといけない。事業計画や収支予算に盛り込んでいない事業については実施できないのか。

《中田委員》

事務局でイベントを実施するのはなかなか難しいが、民間ではコロナ後でイベントの実施が増えつつある状況であると思う。広島市観光政策部としてはそういったものについて網を張って把握したいと思っている。収支予算にはその他という項目の予算も計上しており、それらを活用し、委員の皆様に御相談の上で水辺の活性化やにぎわいに資するような民間のイベント等に協力したいと思う。

《西名会長》

そういったイベントがあれば事務局にも情報提供を行い、協議会の場合などでこれは支援してもいいのではないかとこのものがあれば積極的に働きかけを進めていくという方向性でよいのではないか。

《橋村委員》

第3次「水の都ひろしま」推進計画を策定したが、推進計画の内容が事業計画には含まれないものもあるがこれは次の事業計画以降に行うのか。

《事務局》

この事業計画には記載していないが、事務局の一つである広島市において予算計上して実施するものなどもあり、推進計画に掲げる事項の実現を目指して来年度は難しいかもしれないが、令和7年度以降に委員の皆様の意見を反映させながら事業を実施していく必要があると考えている。

《市川委員》

推進計画について委員の意見を踏まえて策定を行われたが、パブリックコメントは募集しないのか。

《西名会長》

推進計画の存在や計画に基づき、みんなで推進していくという動きがあるということの情報発信はあまり行われていないと感じるが、今いただいた意見に対して何かあるか。

《事務局》

御指摘のとおり、情報発信は大切であると思うので、例えば5年後にこの計画を見直す場合には、パブリックコメントを取り入れることは一つの手法だと思う。

《西名会長》

推進計画の概要がわかるパンフレットはあるのか。

《事務局》

概要がわかるパンフレットの作成は予定していない。

《西名会長》

チラシを事あるごとに渡せるようにしておけばよいと思う。

《事務局》

例えば、広島市観光政策部の窓口で第3次「水の都ひろしま」推進計画を策定しましたというチラシを置くこと、水辺のコンサートの際にそういったチラシを掲示することは可能であると思う。

《西名会長》

オープンカフェMAPなどと併せて広く周知していくことに力を入れることは重要であると思う。

《中田委員》

「水の都ひろしま」推進計画は国・県・市で策定した「水の都ひろしま」構想をよりどころとしており、この構想は平成15年で少し古いものであるが、構想を策定する際にはパブリックコメントを募集している。今後、事務局の方で検討していきたいと思う。

—原案のとおり承認—

報告事項(1)

京橋川オープンカフェ出店者との契約更新について

—質疑なし—

報告事項(2)

京橋川オープンカフェ（右岸）の進捗状況について

《岡村委員》

出店期間の延長の要望とあるが、既定の出店期間はあるのか。

《事務局》

公募時に最長で令和13年3月31日までという内容で募集している。

《岡村委員》

オープン予定はいつだったのか。

《事務局》

元々は前出店者の店舗を引き継ぐ予定であったため、令和5年の秋頃オープン予定であった。

《西名会長》

オープンがいつぐらいになるのか等が具体的に判明してから出店期間延長についての協議いただくことになるだろうと思う。

《山本副会長》

次期出店者と前出店者との折り合いがつかなかったということがオープンになり、このようなトラブルがあるなら今後の公募では応募者が減るのではないか。

《事務局》

募集要領上では、既存店舗の譲渡を受けるか、若しくは新築とするかが選択できるようになっており、既存店舗の譲渡を選択する場合は、前出店者との店舗譲渡の交渉を直接行うように明記している。推進協議会としては、前出店者の希望売却価格のみを応募者に伝えることも明記している。その状況において、当事者同士で折り合いがつかなかったということである。今後、他店舗の公募の際は、募集要領の内容をしっかりと周知するとともに、早期に店舗の出店ができるように事務局としては進めていきたい。

《山本副会長》

出店期間が遅れても特にペナルティはなく、市民のためにこの時期までにはオープンさせるなど決まっていなかったのか。尾ひれがついて、悪いイメージがつかないか心配である。

《事務局》

御指摘のとおり、いつまでにオープンしなければならないと明記していない。出店が遅れば遅れるほど、出店者側も出店期間が短くなる。今回は次期出店者と前出店者の折り合いがつかなかったということと、公園管理者による樹木の伐採に時間がかかったという状況であった。

《西名会長》

速やかに店舗がオープンできるように考えてみてほしい。

その他

River Do ! 基町川辺コンソーシアムの活動報告

—質疑なし—

出席委員

分野	所属	役職	氏名	出欠	備考
有識者	広島大学大学院	教授	西 名 大 作	○	
	比治山大学	教授	山 田 知 子	欠	
	近畿大学	教授	市 川 尚 紀	○	
市民 団体等	ポップラ・ペア レンツ・クラブ	幹事	正 本 大	○	
	京橋川かいわい あしがるクラブ	代表	山 本 恵由美	○	
	広島市内水面漁業 協同組合	代表理事組合長	鈴 木 修 治	欠	
経済・ 観光等	(一社)広島県観光 連盟	専務理事	岡 村 清	○	
	(一社)広島県生活 衛生同業組合 連合会	会長	佐々木 克己	○	【代理】 静村 昭
	(一社)日本旅行業 協会中四国事務局	事務局長	橋 村 秀 樹	○	
行政	国土交通省	中国地方整備局 企画部広域計画課長	佐々田 敬久	欠	
		中国運輸局観光部 観光地域振興課長	柏 木 実	○	
	広島県	土木建築局 河川課長	水 頭 頭 治	○	
	広島市	経済観光局 観光政策部長	中 田 忠	○	